

イベントレポート『2012 GT耐久東海シリーズ 第1戦』

開催日 2012年3月18日(日)

13:00 決勝スタート 16:00 チェッカー

天候 雨

最高気温 12.9℃(15時)

場所 スパ西浦モーターパーク

参加台数 23台

今年で5シーズン目を迎えるGT耐久東海シリーズの開幕戦が、3月18日に愛知県蒲郡市のスパ西浦モーターパークで開催された。

前日は本格的な雨であったが、この日は降水確率10%で天候は曇りの予報。朝にはコース全体はウェット状態だったものの、GT耐久が始まる午後には路面が乾くことが予想された。

しかし昼前から降り始めた雨は止むことなく、低温も相まって非常に難しいコンディションの中でのレースとなった。

また今年から義務ピットインの時間管理が、タイムカードから計時上のラップタイムでの管理に変更となった。このためピットアウトのタイミングは各チームが計算して指示しなければならず、チームの戦略が勝敗を左右する比率が高くなった。さまざまな面において難しいレースとなった開幕戦。このレースを制したのはどのチームか。



■「1+2C」クラス(1500cc以下のNA車と、1200cc以下の過給機付き車のクローズドクラス)

昨シーズンまでは改造範囲の狭いクローズドクラスのマシンと、改造範囲の広いオープンクラスのマシンが、ハンディータイムを付けることで混走となっていたこのクラス。

今シーズンからはオープンクラスのマシンは、排気量を問わずOPクラスに一本化されたことから、このクラスはクローズドクラスのマシンのみで戦うことになった。

開幕戦では昨年から引き続きエントリーの#12「カムコパッションネマーチ」、#449「金沢工大自動車部ストーリーア」、そして3Cクラスからマシンチェンジしてきた#41「DXLシーワンNチームシティ」の3台がエントリーしてきた。



■予選

予選はグリップが非常に低く難しい路面の中で行われた。その中で1番手となるタイムをマークしたのは#41「DXLシーワンNチームシティ」でタイムは1'13.266を記録。2番手には#12「カムコパッションネマーチ」が1'16.067で続く。

#449「金沢工大自動車部ストーリーア」は予選タイムを残すことが出来ず、最後尾スタートとなる。



■序盤

SCカーの先導によるフォーメーションラップが終わり、決勝がスタートした直後の1コーナーで、いきなりのコースアウトが発生し赤旗中断。この日の滑りやすい路面を象徴した幕開けとなるが、この路面に足をすくわれるチームが続出することになる。

レース1時間が経過した時点では、#12「カムコパッションネマーチ」と#41「DXLシーワンNチームシティ」はコースアウトなどのトラブルで、ほとんど周回数を伸ばせないまま。

そんな中#449「金沢工大自動車部ストーリー」は順調に周回を重ね、22LAP で断トツの 1 位に立つが、その矢先にまさかのコースアウト & 転倒。幸いにもドライバーに怪我は無かったものの、ここでレースを終えてしまう。

■終盤

序盤にアクシデントに見舞われた#12「カムコパッションネマーチ」と#41「DXLシーワンNチームシティ」の両チームではあったが、その後はレースに復帰して慎重に周回を重ねて行く。

2 時間経過時点では#41「DXLシーワンNチームシティ」が 1 位に立ち、2LAP 差で#12「カムコパッションネマーチ」が追い掛ける。

■最終結果

このクラス、トップでチェッカーを受けたのは#41「DXLシーワンNチームシティ」で、50LAP を走りきった。

2 位の#12「カムコパッションネマーチ」はトップから 5LAP 遅れでのフィニッシュとなった。

序盤に戦列を去った#449「金沢工大自動車部ストーリー」は規定回数に足りなかったため、完走扱いとはならずポイントを獲得することは出来なかった。

このクラス、各チームとも滑りやすい路面の犠牲となってしまったが、是非とも今回の教訓を今後に活かし、さらなるレベルアップを期待したい



■3Cクラス(1501cc 以上の NA 車と、1201cc 以上の過給機付き車のクローズドクラス)

昨年も毎回最多エントリーとなっていたこのクラス。今年の開幕戦も10台がエントリーし激戦区となった。

昨年度のチャンピオン#830「WM CLNシビック」はマシンをEGからEKにチェンジし、心機一転のエントリー。

シビックが4台エントリーする一方で、プジョー106にBMWと輸入車の参戦も目立っている。

過去のレースでは、雨が降るとドライの時とは順位が大きく変わる傾向があることから、今回の順位も全くの予測不能である。



■予選

滑りやすく難しいコンディションの中、予選1番手に付けたのは1'07.252をマークした#111「S'tecAE-1ファジートレノ」であった。パワーではVTEC勢に劣るAE111ながら、見事なマシンコントロールで総合でも1位となる堂々たるタイムを叩き出した。

2番手は1'07.907をマークした#28「アクセントBスターレット」。昨年度シリーズ2位のこのチーム、今年も幸先よいポジションでの決勝スタートとなる。

3位には#106「D&Mプジョー106」が入るが、トップとのタイム差はわずか0.8秒の1'08.024で、3列目の好位置につける。

4位には初参加の学生チーム#11「金沢大学自動車部シビック」が1'08.586で入る大健闘ぶり。決勝でも好ポジションをキープできるか。

以下5位に1'09.380の#75「DXLシーワンNチームEP82」、6位に1'09.945の#36「剛式レーシング318is耐久号」と続く。



■序盤

スタート直後のコースアウトにより、再度のスタートやり直しとなった決勝冒頭。リスタートから60分が経過した時点での1位は、29LAPの#960「Team KRS WM DLシビック」。予選10位から大きくジャンプアップ。

2位には27LAPの#75「DXLシーワンNチームEP82」が続く。

3位の#28「アクセントBスターレット」は26LAP、4位と5位は同一の25LAPで#450「味長持ち3時間アコード」、#31「イケダレーシングSDCシビック」が僅差で続く。

予選1位の#111「S'tecAE-1ファジートレノ」と予選3位の#106「D&Mプジョー106」はともに24LAPで6位と7位のポジションに。



■終盤

2時間が経過した時点では#28「アクセントBスターレット」が49LAPでトップに立つ。2位には#960「Team KRS WM DLシビック」がトップを射程圏内に捉える28lapで続く。

3位と4位はともに46LAP。#106「D&Mプジョー106」と#450「味長持ち3時間アコード」が位置し、これを45LAPの#111「S'tecAE-1ファジートレノ」が追い掛け、表彰台を懸けた争いを繰り広げる。

序盤2位に付けていた#75「DXLシーワンNチームEP82」はコースアウトで6位まで順位を落とす。



■最終結果

3Cクラス、1位でチェッカーを受けたのは、終盤にトップに立ち72LAPを走りきった#28「アクセントBスターレット」であった。昨年も2勝をあげたこのチーム、今年もその実力ぶりを披露した。

2位には#450「味長持ち3時間アコード」が69LAPで入り、嬉しい初表彰台をゲットした。

続く3位の#106「D&Mプジョー106」は、2位から遅れることわずか3.9秒。頭一つ届かなかった。

4位の#111「S'tecAE-1 ファジートレノ」も2位3位と同一周回。11秒差で惜しくも表彰台には届かなかった。

5位には68LAPで#75「DXLシーワンNチームEP82」が入ったが、中盤でのコースアウトが最後まで響いた。

以下67LAPで6位#960「Team KRS WM DLシビック」、7位#36「剛式レーシング318is耐久号」が続いた。

今回のレースでは、速さをキープすることとコース上に残り続けることは紙一重であったが、それをやり遂げたチームが上位を獲得した。

第2戦はどのようなコンディション下でのレースになるかわからないが、このクラスは各チームの力の差がほとんど無いため、今回上位のチームといえども次回の順位は全くわからないと言えよう。



■ OPクラス(排気量区分無しオープンクラス)

昨年のオープンは排気量によってクラス分けされていたが、今年からは排気量を問わず一つのクラスとなった。

しかし、スパ西浦モーターパークにおいては、排気量が多い方が一概には有利とは言えない。これは昨年に小排気量の改造車が、総合ポールポジションを取っていたことからわかる。

今年の開幕戦は、排気量区分が無くなったことによりエントリー台数が10台となり、3Cクラスと並ぶ激戦区となった。

■ 予選

ウェットの難しい路面状況の中、予選1番手タイムを叩き出したのは、なんとFR車の#180「M. M. S. 180SX」であった。タイムは1'07.507をマークし、総合2位の最前列グリッドを獲得した。

2番手は#18「T-BODYエクセルインテグラ」で1'07.742を記録。昨シーズン前半は不運が続いたが、今シーズンは幸先良い位置からのスタートとなる。

3番手には1'08.565の#6「ソーワフレミングシビック」が続く。過去に不遇の時期が長かったが、昨年最終戦での準優勝から調子が上向いてきたか。

4位には#110「DXLアライメント浜松シティー」が1'09.018で入る。軽量を活かして決勝では上位に食い込めるか。

以下5位に#56「RS正和ナフティーEP91」が1'09.960で、6位に#13「カムコスターレット」が1'10.204で続く。

■ 序盤

ローリングスタートからセーフティカーがピットロードに入り決勝がスタート。直後の1コーナーでトップの#180「M. M. S. 180SX」がコースアウトし、トップ争いからは脱落してしまう。

この他にもコースアウトが多く発生する中、1時間が経過した時点では、予選7番手からスタートした#2「NGRSレビン」が29LAPでトップに立つ。

2位には27LAPで#56「RS正和ナフティーEP91」が、3位と4位は26LAPの同一周回で、#96「TeamKRS制動屋DL EG9」と#6「ソーワフレミングシビック」が続く。

また5位と6位も25週の同一ラップで、#18「T-BODYエクセルインテグラ」、#13「カムコスターレット」というオーダー順。

■ 終盤

2時間経過時点では#6「ソーワフレミングシビック」が49LAPでトップに立つ。

2位には46LAPの#56「RS正和ナフティーEP91」が続く。

そして3位から6位までの4チームは、45LAPでの接近戦。#96「TeamKRS制動屋DL EG9」、#2「NGRSレビン」、#17「カムコ1.3改スィフト」、#13「カムコスターレット」と続き、7位で44LAPの#18「T-BODYエクセルインテグラ」も含めて、トロフィーのもらえる6位入賞圏内争いが激化する。

しかしこの時点で3回の義務ピットインを終えているチームと、そうでないチームが入り乱れているため、この時点での順位は大きく入れ替わることになる。



■最終結果

チェッカーまで残り数分。#56「RS正和ナフティーEP91」がトップに立ち、これより 10 秒弱遅れで#6「ソーワフレミングシビック」が追いかける。全ギャラリーが注目する最終ラップの第二ヘアピンで#56 がまさかのスピンを喫し、奇跡の逆転が起きるかと思われたが間一髪復帰を果たし、1.7 秒差で#56「RS正和ナフティーEP91」がトップチェッカーを受けた。

#6「ソーワフレミングシビック」はラストの猛然とした追い上げでギャラリーを沸かせたが、鼻の差で準優勝となった。ラップ数はともに 72 周であった。

3 位には今年より初参加の#96「TeamKRS制動屋DL EG9」が 68LAP で入り、いきなりの表彰台をGETした。

4 位は#18「T-BODYエクセルインテグラ」が 67LAP で続き、同一ラップでの 5 位には、小排気量のハンディーを跳ね返し#17「カムコ1. 3改スィフト」が続いた。

以下 6 位に 66LAP の#2「NGRSLレビン」、7 位に 65LAP の#13「カムコスターレット」が入った。

今回はウエットという条件ではあったが、優勝した#56「RS正和ナフティーEP91」を始め、小排気量車の検討が目についた。

第 2 戦以降はどのようなマシンが上位に来るのか注目したい。

